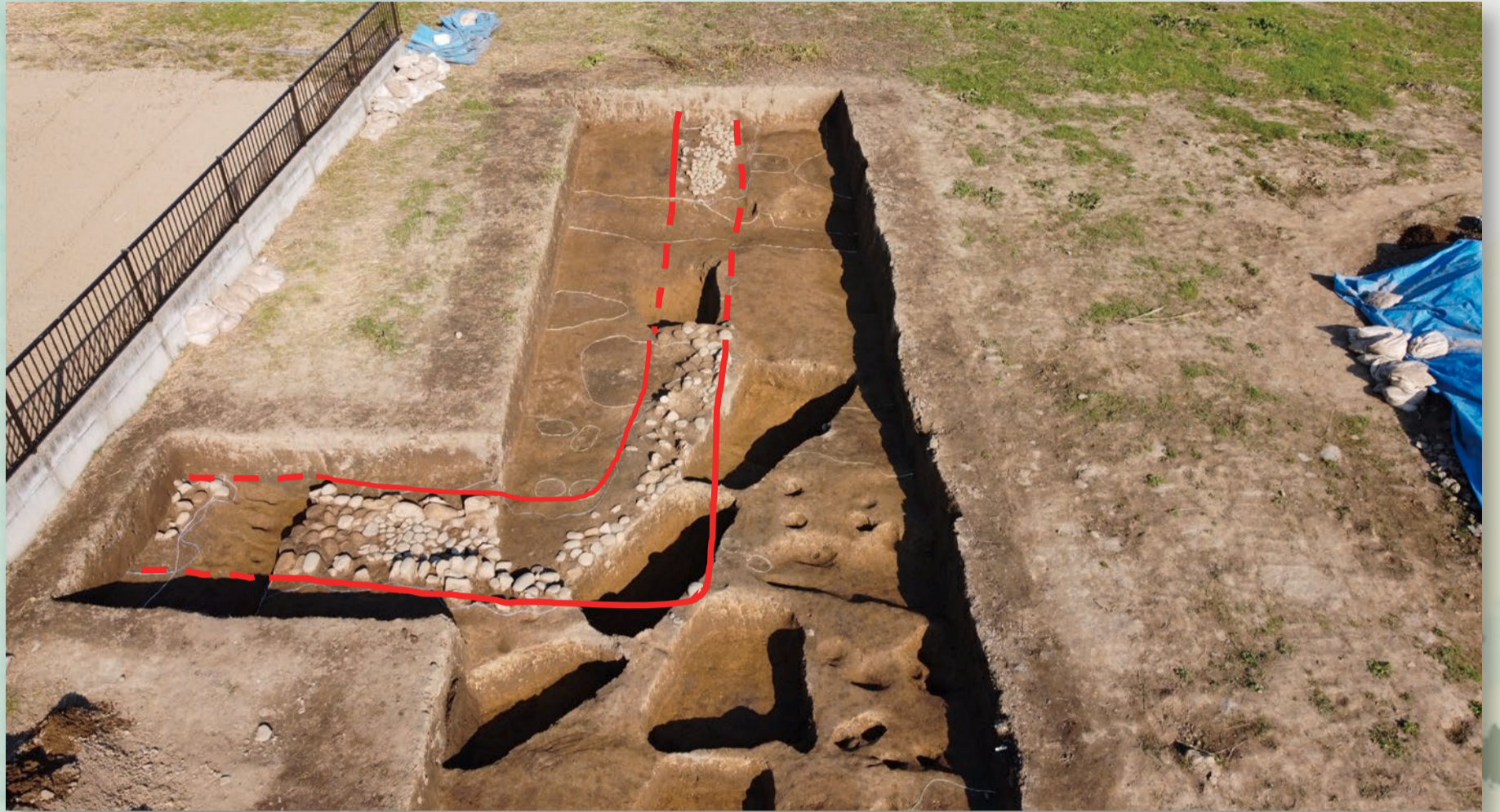


# 発見!! 石組溝跡～郡山遺跡～

弥生	原始
古墳	591頃
飛鳥	693頃
奈良	794頃
平安	1190頃
鎌倉	1334頃
南北朝	1392頃
中世	室町
1467頃	戦国
1573頃	安土山
1603	
近世	江戸
1868	
近代	明治
1912	大正
1926	
1945	昭和



石組溝跡(南から)

**所在地** 太白区郡山

**年代** 飛鳥時代～奈良時代

**調査期間** 令和6年10月～12月

**調査面積** 約156㎡

### 解説

郡山遺跡はJR長町駅の南東0.8kmに位置します。I期(7世紀中頃～後半)とII期(7世紀末～8世紀初め)の官衙(役所)があり、陸奥国で最初に作られた国府と考えられています。今回の調査では石組溝跡が発見されました。これまで発見されたものを含めると南北33m以上延び、今回の調査地で西に曲がることわかりました。この溝跡は今回の調査区よりも北で発見された石組池跡や石組溝跡とつながると想定されます。この溝跡は当時の飛鳥京跡(III期:660～694年頃)の中心部分の溝跡に似ており、郡山遺跡でも飛鳥京と同じような蝦夷への儀礼や饗宴が行われたものと考えられます。

### 調査員のイチオシ!



石の造形—石組溝と石組池跡—  
飛鳥時代の宮殿と同じ!!



# 水害にあった弥生集落!?! ~ 高江遺跡 ~

原始	弥生
591頃	古墳
693頃	飛鳥
794頃	奈良
1190頃	平安
	鎌倉
1334頃	南北朝
1392頃	
中世	室町
1467頃	
戦国	
1573頃	安土山
1603	
近世	江戸
1868	
近代	明治
1912	大正
1926	
1945	昭和



弥生時代の水田の畔の跡

**所在地** 宮城野区岩切字高江

**年代** 弥生時代

**調査期間** 令和6年6月～10月

**調査面積** 約568.0㎡

### 解説

高江遺跡は宮城野区岩切字高江に位置します。今回の調査では、弥生時代中期(約2,200年前)の水田を覆う土層から多くの土器や石器が見つかりました。この多くの遺物を含む土層が水田を覆っている理由を考えるため、珪藻分析を行いました。珪藻は水気のある場所を好む微生物で、生活する場所が種類によって異なります。分析の結果、土器などを含む土層には海水・汽水の珪藻が非常に少なく、多くは淡水(川や池)に住むものでした。このことから、川からあふれた水(洪水など)が弥生時代の集落を襲い、そこで使われていた土器などが土砂と一緒に水田の上に流されてきた可能性が考えられます。

### 調査員のイチオシ!



弥生土器に付いた籾殻の圧痕!  
お米を作っていた証拠になります。



# 令和6年度に指定・登録された文化財

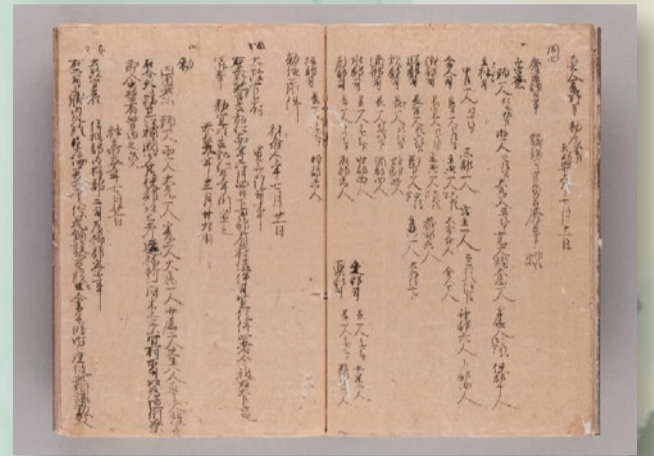
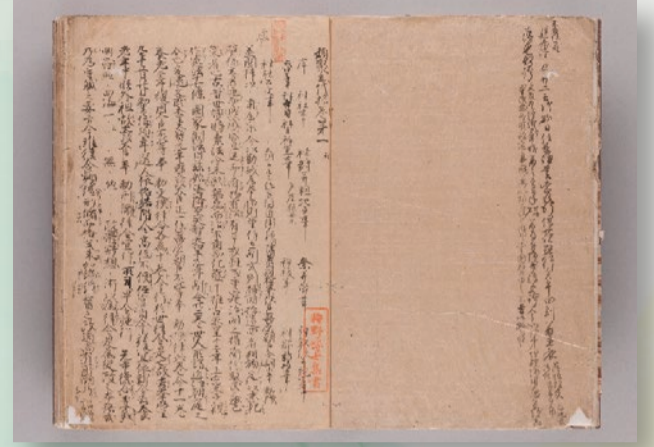
原始	弥生
	古墳
古代	飛鳥
	奈良
	平安
中世	鎌倉
	室町
近世	戦国
	江戸
近代	安土桃山
	明治
	大正
昭和	昭和



**法領塚古墳**  
 上：古墳全体の様子  
 下：石室内の様子  
 (平成22年発掘調査時)



**木造菩薩立像**  
 (仙岳院蔵)



**類聚三代格**  
 (東北大学附属図書館蔵)

ほうりょうづか  
**(1) 法領塚古墳 (仙台市指定有形文化財:史跡)**

仙台市若林区一本杉町、学校法人聖ウルスラ学院の敷地に所在します。周辺は遠見塚古墳をはじめとして古墳時代の拠点的な地域でした。古墳は良好な状態で保存されており、当時の墳丘と横穴式石室を今に残す市内唯一の古墳であることや、古墳時代の終末期(7世紀前半頃)としては東北地方で最大級の規模(直径55メートル)の円墳であること等が評価されました。

もくぞう ぼさつりゅうぞう  
**(2) 木造菩薩立像 (仙台市登録有形文化財:彫刻)**

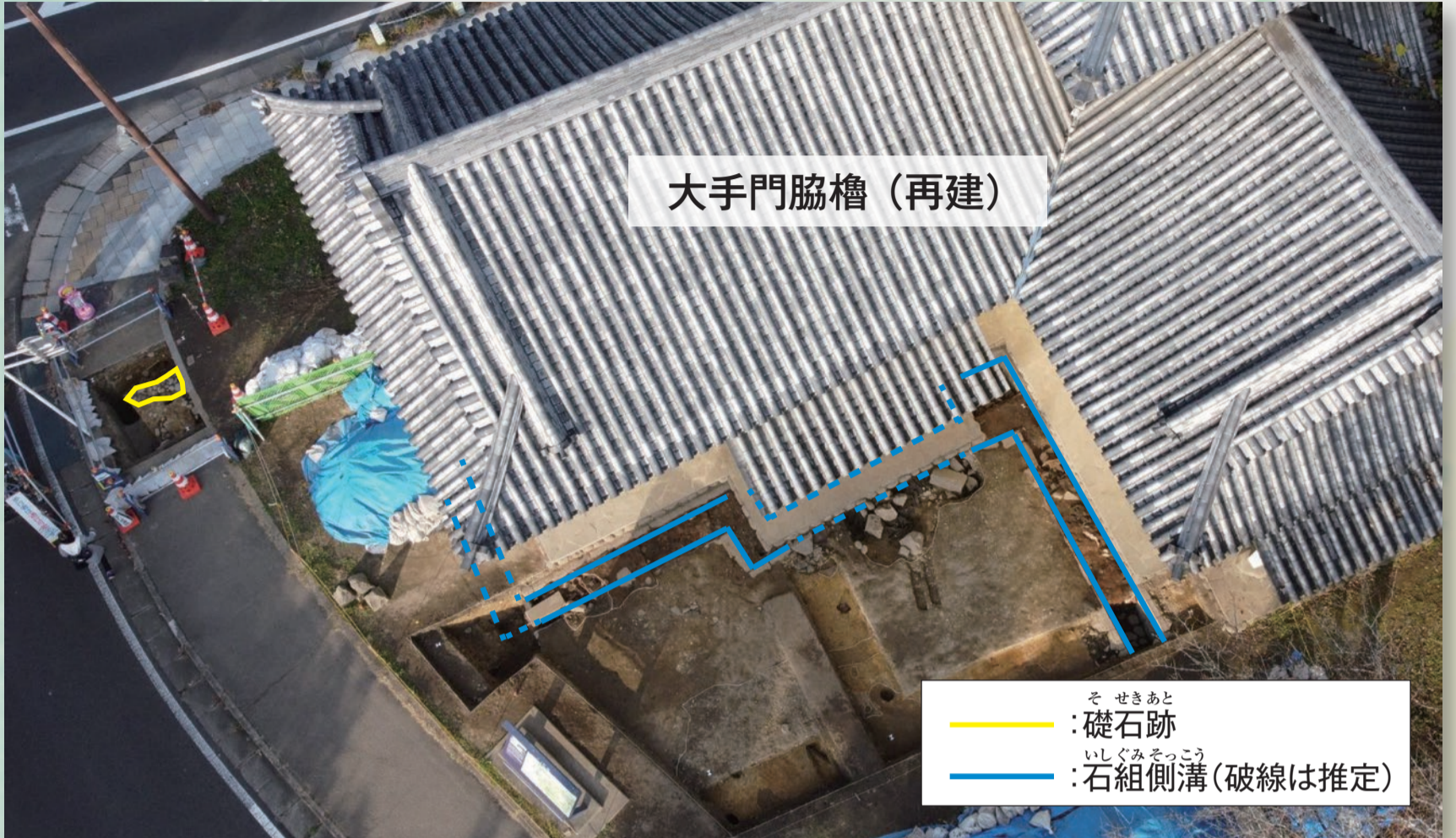
仙台市内でも数少ない、鎌倉時代(13世紀頃)の作と考えられる像です。仙台藩2代藩主伊達忠宗が建立した東照宮の別当寺として創建された仙岳院に所蔵されています。過去に修理を受けた部分はありますが、頭部・胴体の大部分が当初の木材から構成され、基本的な造形も当初の状態を残していること等が評価されました。

るいじゅさん だいきやく  
**(3) 類聚三代格 (宮城県指定有形文化財:書籍・典籍)**

類聚三代格は、古代律令国家の法令集で、格は古代の法である律・令・格・式のうち、律・令の規定を改定・補足する際に出された詔勅や太政官符のことです。本資料は抄本(一部を抜粋した写本)ですが、他の写本では欠損などにより不明点が多かった巻四の復元が可能な現存唯一の写本として、学術的な価値が高いものです。なお、本書の巻五には陸奥国の国司の定員や、多賀城に置かれた鎮守府に関わる格など、宮城県の古代史にとって重要な内容も含まれています。

# お お て もん      こ ん せ き      せ ん だ い じ ょ う あ と 大手門の痕跡を発見!!～仙台城跡～

原始	弥生
	古墳
591頃	飛鳥
693頃	奈良
794頃	平安
1190頃	鎌倉
	室町
1334頃	南北朝
1392頃	戦国
1467頃	安土桃山
1573頃	
1603	
近世	江戸
1868	
近代	明治
1912	大正
1926	
1945	昭和



大手門脇櫓（再建）

そ せ き あ と  
— : 礎石跡  
い し ぐ み そ っ こ う  
— : 石組側溝(破線は推定)

## 大手門の柱の痕跡(礎石跡)と石組側溝

**所在地** 青葉区川内      **年代** 江戸時代～昭和  
**調査期間** 令和6年6月～12月      **調査面積** 約71.3㎡

**解 説**  
 仙台城大手門は、江戸時代を通して、仙台城の正門として存続していましたが、昭和20年の仙台空襲の際に焼失しました。今回の発掘調査では、大手門の柱の土台である礎石を支えるために敷かれる根固め石(礫の集まり)を発見しました。これは大手門南西隅の柱の痕跡であると考えられます。また、大手門と大手門脇櫓の周囲を巡る、石材で側面が構成される雨落ち溝(石組側溝)を発見しました。雨落ち溝は、屋根の先から落ちる雨水を受ける溝なので、この溝の形が分かることで屋根の輪郭を知ることができます。こうした現地の痕跡から、往時の大手門と大手門脇櫓の位置がわかってきました。

**調査員のイチオシ!**

おにがわら  
**出土した鬼瓦**  
 鬼の顔が立体的で精巧に表現されています



かま あと

だい れん じ

# 新たな窯跡を発見!!～大蓮寺窯跡～

原始	弥生
591頃	古墳
693頃	飛鳥
794頃	奈良
1190頃	平安
	鎌倉
1334頃	南北朝
1392頃	
中世	室町
1467頃	
戦国	
1573頃	安土山
1603	
近世	江戸
1868	
近代	明治
1912	大正
1926	
1945	昭和



発見された窯跡と、周りを巡る溝跡

**所在地** 宮城野区東仙台

**年代** 古墳～平安時代

**調査期間** 令和6年7月

**調査面積** 約20㎡

## 解説

大蓮寺窯跡はJR東仙台駅の北西約0.4kmに位置します。古代の瓦が多く発見されており、北西に1.5kmほど離れたつばめざわ いせき燕沢遺跡やこおりやま いせき郡山遺跡で用いられたとされています。瓦はつけられた模様により年代が異なります。今回の調査では、今まで多く見つけていた、縄を巻いた工具で叩いた模様の瓦は見つからず、格子目状の模様がついた瓦が発見されました。このことから、今回見つけた窯跡は、より古い時期の瓦を焼いた窯である可能性が考えられます。

また、今回の調査では、近世頃の鬼瓦なども発見されました。これらは江戸時代の大蓮寺の建物に使われていた可能性があり、大蓮寺の歴史を紐解くきっかけになりそうです。

## 調査員のイチオシ!



のきひらがわらじゅうこもん  
軒平瓦(重弧文)

郡山官衙との関係をうかがわせる重要資料!!



# 珍しい遺物も出土…!?～南小泉遺跡～

弥生	原始
古墳	591頃
飛鳥	693頃
奈良	794頃
平安	古代
鎌倉	1190頃
南北朝	1334頃
室町	1392頃
戦国	1467頃
安土桃山	1573頃
江戸	1603
明治	近代
大正	1868
昭和	1912
	1926
	1945



遺構全景

**所在地** 若林区古城

**年代** 古墳時代～中世

**調査期間** 令和6年5月

**調査面積** 約37.2㎡

### 解説

南小泉遺跡は地下鉄東西線薬師堂駅やくしどうの南に位置します。この遺跡では、縄文時代晩期～近世までの長い間、集落が断続的に続いていました。今回の調査では、古墳時代～中世にかけての遺構が重なり合って見つかりました。そのなかでも、たてあない こう 竖穴遺構からは土師器や須恵器、勾玉などの遺物が多く出土しており、遺物から竖穴遺構の年代は10世紀末～11世紀初めであることが分かりました。また、みぞあと 竖穴遺構より古い溝跡は、さいべんれん げもん 細弁蓮華文の軒丸瓦が出土したことから、9世紀中頃には埋まったことが分かりました。このように、この場所では古墳時代～中世にかけて断続的に人々の営みが続いていたことがうかがえます。

### 調査員のイチオシ!



さいべんれん げもん  
細弁蓮華文の軒丸瓦  
かわらぶき  
瓦葺の施設や窯跡以外で見るのはレア!



# 長年の謎が解明!!～陸奥国分寺跡～

原始	弥生
	古墳
591頃	飛鳥
693頃	奈良
794頃	平安
古代	
1190頃	鎌倉
1334頃	南北朝
1392頃	
中世	室町
1467頃	
戦国	
1573頃	安土山
1603	
近世	江戸
1868	
近代	明治
1912	大正
1926	
1945	昭和



発見された築地塀の痕跡・溝跡

**所在地** 若林区木ノ下      **年代** 奈良～平安時代  
**調査期間** 令和6年5月～8月      **調査面積** 約195.9㎡

### 解説

陸奥国分寺跡は地下鉄東西線薬師堂駅の西約0.3kmに位置します。天平13(741)年に聖武天皇の勅命により、仏教の力によって国を守り治めるために建立された寺院の一つです。陸奥国分寺跡は、現在確認されている国分寺の中で最北に位置しています。

今回の調査では、お寺の敷地を区画していた築地塀に伴う、「掘り込み地業」と呼ばれる土を繰り返し敷き固めた痕跡を発見しました。これにより、長年の謎であった陸奥国分寺跡の北側の区画が明らかとなり、東西約240m(800尺)、南北約270m(900尺)の極めて整った形状の寺域であることが明らかとなりました。

